

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和2年 2月 20日

事業所名:障害児通所支援ハーティKids

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	法令に遵守したスペースを確保しています。リトミック室、機能訓練室のスペースを確保しています。	はい18名 いいえ0名 どちらともいえない0名 わからない1名	現状を維持し、利用者が安全に楽しめるスペースの確保をしていきます。
	2 職員の適切な配置	法令に定められた人員を確保しています。保育士、理学療法士、言語聴覚士等の専門職が配置されています。	はい18名 いいえ0名 どちらともいえない0名 わからない1名	引き続き、支援に必要な人員配置を維持していきます。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	机や棚の角にはクッションで保護しています。活動を行う場所はマットをひいていますが、車いすや歩行器練習の時は段差をなくしています。	はい18名 いいえ0名 どちらともいえない0名 わからない1名	駐車場から施設まで段差はありません。ニーズに合った整備を行っていきます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃、床や物品消毒を徹底しています。トイレに関しては職員が定期的確認し清潔を保つようにしています。	はい19名 いいえ0名 どちらともいえない0名 わからない0名	清潔な環境を維持できるように今後も努めていきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎朝カンファレンスを行いセラピスト間で情報を共有しています。問題解決や業務改善に努めています。		職員が情報共有できるように今後も努めていきます。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価は受けておりませんが、業務改善や質の向上に努めています。		今後、第三者の評価については検討していきます。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	各職員が内外部の研修に参加し、職員の質・能力向上に努めています。		研修機会を確保できるように取り組んでいます。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントは保護者と子供のニーズや課題を聞き取り、現状を確認し計画を立案します。		利用者にわかりやすく丁寧な支援が行えるようにしていきます。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別での療育のみ実施します。利用者の状況変化に応じ支援計画を作成しています。	はい18名 いいえ0名 どちらともいえない0名 わからない1名	個別療育を基本とし必要であれば集団活動を組み合わせて支援を行っていきます。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	支援内容を具体的に記載しています。		わかりやすく丁寧な支援ができるように努めていきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容		
適切な支援の提供 t(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	子供の特性を理解し、それぞれの専門分野で支援計画に基づき実施します。	はい17名 いいえ0名	どちらともいえない0名 わからない2名	適切な支援の実施に努めます。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	個別療育支援のみの対応です。			利用者に必要な計画の立案を行っていきます。わかりやすく説明をおこなうようにしていきます。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、休日ともに利用者に応じた支援を行っています。提供時間は平日休日とも同じです。	はい13名 いいえ0名	どちらともいえない3名 わからない3名	個別に必要な支援を設定し提供していきます。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	必要な支援をするため、固定の有無は個々の状態に合わせて決定している。繰り返すことで習得できることもあります。			個別に必要な設定を立案しています。固定化の必要な場合、しないほうが良い場合を見極めて提供します。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	個別に対応するため、朝カンファレンスや特記事項など共有するようにしている。			必要に応じて役割の確認を行っていきます。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	お互いに専門的な内容は相談や助言を行っている。			カンファレンスを通して共通理解できるように努めていきます。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	支援終了後、記録は徹底している。			現状維持するように努めます。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回個別支援計画更新のためモニタリングを実施し検討を行う。			現状維持するように努めます。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	できるかぎり管理者、担当職員が参加するようにしている。		担当者会議に参加できるように努めます。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	サービス担当者会議や、モニタリングで情報共有している。必要であれば訪問支援を保護者と相談し実施していく。		サービス担当者会議は参加するようにしています。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	学校を卒業する対象児がいない。		現状は行っていません。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて研修への参加、専門機関と連携を図っていく。		専門機関との連携、研修を受講するようにしていきます。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	未実施	はい5名 どちらともいえない2名 いいえ5名 わからない7名	現状は交流を考えていない。利用者が園や学校などで安心して過ごせることを協力しながら考えていきます。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	実習生の受け入れがある場合はあるが、行事等の開催は考えていない。		専門職の実習は今後受け入れていく予定ですが、行事等の開催は行う予定はない。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時にサービス利用契約に基づき説明を行う。	はい18名 いいえ0名	どちらともいえない0名 わからない1名	保護者にわかりやすく説明するように努めます。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	説明時間を設けて丁寧に説明し同意をいただく。	はい17名 いいえ0名	どちらともいえない0名 わからない2名	支援内容を専門用語を使わずにわかりやすく説明するように努めます。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	助言程度でペアレント・トレーニングは行っていない。	はい9名 いいえ3名	どちらともいえない4名 わからない3名	保護者とのコミュニケーションを十分とるように努めます。相談しやすい環境づくりに努めます。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	保護者に送迎してもらうため、コミュニケーションは取りやすい環境づくりに努めている。	はい16名 いいえ0名	どちらともいえない1名 わからない1名	経過報告や相談支援を定期的に時間を設けて実施していきます。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談時間を定期的に設けるようにしている。必要に応じて相談できるようにしている。	はい10名 いいえ0名	どちらともいえない5名 わからない4名	相談しやすい環境づくりに努めます。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会等の開催はしていません。個別に対応しています。	はい2名 いいえ6名	どちらともいえない3名 わからない8名	保護者から依頼があれば事業所として検討していきます。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	現在苦情はありませんが、迅速に対応できるようにしています。	はい10名 いいえ0名	どちらともいえない0名 わからない9名	苦情があった場合、調査を行い迅速に対応いたします。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	表情から読み取ったり、動作から要求していることを共通理解できるようにしています。	はい17名 いいえ0名	どちらともいえない1名 わからない1名	現状維持できるように努めます。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	HPなどで適時情報を更新しています。	はい7名 いいえ0名	どちらともいえない3名 わからない9名	ホームページなどを活用していきます。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	職員へ個人情報の取り扱いを入職時に説明を行う。個人情報を他機関と共有する場合は保護者の同意を得る。	はい18名 いいえ0名	どちらともいえない0名 わからない1名	引き続き適切な対応を維持できるように努めます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアル等あります。、保護者に契約時に緊急時などの対応方法の説明は行っている。わかりやすいように表示できるものはしています。	はい11名 どちらともいえない2名 いいえ0名 わからない5名	必要に応じてマニュアルなど閲覧できるようにしていきます。事業所内の表示をわかりやすくしていきます。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	夏休み中に防災訓練を実施しました。	はい7名 どちらともいえない1名 いいえ0名 わからない11名	個別療育ですが、年に1回防災意識を持ってもらうためにできる限り実施していきます。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	入職時、適時事業所内研修を実施する。		事業所内で勉強会や外部の研修に参加できる機会を作るようにします。職員の意識向上に努めていきます。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束を実施したことはない、子供自身や職員に危害がありそうな場合は事前に保護者に同意をもらい、日報に記載する。		身体拘束の必要性が生じた場合、利用者や保護者に説明を行い同意を得るようにします。また、書面で内容を詳細に記載するようにしていきます。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事の提供は行っていないが、アセスメント時に確認を行う。		アセスメント時に確認を行い、保護者と連携が図れるようにしていきます。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット放お酷暑が作成された場合は職員間で共有し周知徹底される。		ヒヤリハットが発生した場合は報告書を作成し職員全員が共有し話し合いを行い改善していきます。